

【熊本S. J. C. D. 例会 抄録】

演 題 前歯部の審美修復と咬合再構成を行っている一例
演者名 元島 道信
日 付 2012年3月19日

keywords

1. 基礎資料収集
2. 前歯部審美修復
3. 歯周外科治療

全顎的な治療をおこなっていく上で、正確な基礎資料の収集を行い、問題点を抽出し、正確な診断を行った上で、その患者に対し先を見据えた治療計画を立案することが必要である。

今回の症例は初診時、74歳の女性で、右下臼歯部の痛み、前歯部の審美障害を主訴に2010年10月7日に当院に来院しました。

カリエス治療、歯周基本治療の後、歯周外科治療を行い、現在、プロビジョナルにて前歯部の形態修正を行っておりますが、診断の甘さ、資料の取り忘れなど、反省すべき点が多々あります。

途中段階ではありますが、資料収集、診査診断、治療内容、今後の治療へのご意見を頂けたら幸いです。

ご指導の程、よろしく申し上げます。